

1 バイノーラル企画
2 【同居生活ASMR／耳かき／添い寝】
3 お隣の娘やんことの屋根の下
4

5 脚本 日暮茶坊
6 2021/01/12 初稿
7
8

■登場人物

- 9
10
11 美波（みなみ） 16歳、女性。
12
13 あなた 社会人數年目の男性。声がないは止めない。
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

- 82 美波「むちろん、お札はします！」、「う見えて私は、お母さんの代わりに家事のほんとうやってますから、」
83 「」飯作つたりとかお掃除したりとか得意なんです！」
84 85
86 美波「だから……凍えそうな哀れな女子校生を助け
87 ると感ひで……ね？　お願ひします！」
88
89 美波「あー、お母さんのいとなの心配しなくて大丈
90 夫です。お兄さんのいと、いい人よね～つていつも
91 言ひてますから！」
92
93 主人公（だけ）やつぱり女の子を家に上げるのは
94 ……）
95
96 美波「お仕事とかの邪魔もしませんし、ただ、お部
97 屋の片隅に、ちょいとだけ置いてくればいいん
98 メ……ですか？」（上目遣いのイメージ）」
99 美波「お仕事とかの邪魔もしませんし、ただ、お部
100 屋の片隅に、ちょいとだけ置いてくればいいん
101 です。私、小柄だからなんなら家具の隙間とかでも
102 すっぽりいけます！　だから……！」
103
104 主人公（ハア……しようがないなあ）
105
106 美波「ええい！　いいんですか！　やつたあ！」
107
108 //SE:鍵を開ける
109
110 美波「あの……」
111
112 主人公（……？）
113
114 【←】急に近付いて耳元で囁くように
115 美波「おれに、何でもしますか？　遠慮無く聞いて
116 下せこね」
117
118 【∞】少し離れて、いたずらっぽく
119 美波「あ、お母さんに怒られちゃうよくな」いは、
120 めー、ですよ？　ふふふ！」

- 121 //SE:扉開いて——
- 122 //SE:扉閉——
- 123 ○トヲシク2
- 124
- 125 ■リビング
- 126
- 127
- 128 * 「泊まらないけれど、いつも来たいね」 じゃん
129 主人公=視聴者との感覚がズレてしまうので、初めて部屋に入った（入れた）流れにあります。修正も可能です。
- 130 131
- 132
- 133 【⑨】
- 134 美波「おじやあしもーす……(あたつを回しながら)」
- 135
- 136 美波「くべ……」がお兄さんのお部屋なんですね。
137 「くー、くー。なんだか、部屋の作りはウチと一緒に
138 のに、男の人の部屋……感じがしますす！」
- 139 美波「でも、ちゃんと片付いてます」です。ウチ
140 のお母さんなんで、出かける前にいつもベタバタし
141 て色々な物出しあはなしや……（謙虚）」
- 142
- 143 //SE:ドンシャリ Hアロンのコヤロハ音
- 144 //SE:ボーカル強め温風が吹く
- 145
- 146 美波「あい、Hアロンありがといひやんこます。うわ
147 あ……あつたかし……生き返る……へア……Hアロ
148 ン発明した人は天才ですね……」
- 149 美波「……うー。(気でも) す、すみません、つい
150 勝手にくつむじいやうで……」
- 151
- 152 主人公 (気にしないでこよ)
- 153
- 154 美波「お兄さんが気にしないでよ、私が気にしませ
155 う。やつだ、ゆつ晩飯食べましたか？」
- 156
- 157 主人公 (まだだかどー一緒にコノムに行く?)
- 158
- 159 美波「ええ、ロハモリ弁当ですか? つづん……
160 ダメじやないですか? ……あの、冷蔵庫の中、見

161 セレモニーのトマトですか？」

162

//SE:冷蔵庫ドアを開ける

164

165 美波「あー、お野菜とか色々あるじゃないですか。
166 せつかくですかー、」それで何か作りますよ」

167

168 美波「仕事でトマト。宿質(トマト)」。お兄さんは、
169 その間に着替えて帰つていたんだね」

170

171 美波「大丈夫です。台所の作りも一緒だから、スル
172 に何があるかわんとなくわかりますんで」

173

174 美波「あ……もしあればだけけど、Hプロンだけ借
175 りてもいいですか?」

176

177 美波「(受け取って) はー。それでは、晩飯の支度
178 にこりかからりますね。作っている間、ちやーんとお休
179 みしてていいだわーいね。一日働いてきて、お疲れなん
180 ですかー」

181

182 美波「私も学校あつたでしょーって? われはほー、
183 若さになんこでもなりますかー。」

184 美波「はー、それじやテレビ見てい、でもいい
185 していいだやーねー」

186

//時間経過

187

188 【⑨】ふたりとも座つて回るぐらの高さ。
189 テーブルを囲んで食事終わり。

190

191 美波「あ、あの……どう、でした?」(緊張)

192

193 美波「一応、シチュー……私、得意料理なんですが
194 さ……」

195

196 主人公 (美味しかったよ)

197

198 美波「えー、ホントですかー、良かつたあ……(安
199 壤)」

200

- 201 美波「お母さんは美味しいって聞いて食べててくれる
202 んですけど、他の人に食べてもいいたりってなか
203 つたから……味付けとか、好みとか、人それぞれだ
204 つたりするじゃないですか。だから、ちょっとドキ
205 ドキしちやってました」
- 206 美波「良かった、好みの味付けの方向性が一緒なら、
207 他の料理でも大丈夫ですね」
- 208
- 209
- 210 主人公（また作ってくれるの？）
- 211
- 212 美波「え？ また、シチュー作って欲しい、ですか
213 ……は、はいへ。もちろん、いいですよ！ 腕によ
214 りをかけて、今日はなかつた具材とかも使つて、と
215 びつきりのシチュー」駆走しちゃいますね」
- 216
- 217 主人公（でも、なんか悪くなあ）
- 218
- 219 美波「あー、そんな、気にしなくていいんですよ。
220 私が好きでやっているといつか、そもそも今日
221 は助けてもらいたお礼なんですかー。あと、やつ
222 ぱりお母さん以外の人にも食べてもらえた方が、
223 色々練習になりますし……」
- 224
- 225 主人公（なーい、またお願ひしようかな）
- 226
- 227 美波「なーい。お腹が空いたが、遠慮無く呼んでく
228 ださいね♪」
- 229
- 230 美波「それにして、お兄さんはこのくらい
231 まで働いてるんですか？ 私は今日、委員会の仕事
232 とかあつたから、いつもより随分遅いんですけど…
233 …」
- 234
- 235 主人公（そいつだね。むしの耳っぽうかな）
- 236
- 237 美波「はあ……（感心）。うちのお母さんもですか
238 働くて大変ですか……」
- 239
- 240 美波「え？ 私も働いてる？ もんだ、『』飯作った

241 りお掃除したりぐるー、家族なんだから当たり前で
242 すつて。お兄さんも……その……お隣さんだから、
243 家族みたいなものです、うそ」

244 美波「ちなみに……なんですか？」ねむいとだけ気
245 になつてゐるところか……質問が……」
246 美波「お兄さんって……その……おじいちゃん」、や
247 すよねえ」

249 美波「ええいふ……なんていうか、その……変な意
250 味じゃなくて……ふ、今、お付き合ひしている人とか、
251 いるんですか？」

253 主人公（えへ　いないけじへ）

255

256 美波「あー……そ、そ、うなんですねー（安心＆ちよ
257 つじ嬉しへ）。ほ、ほ、勝手に上がり込んで、やう
258 いう人とはつたりーなんていふになつたひ、「」迷惑
259 おかげしからやうかなー……なんて」

260

261 美波「こなこならこいんですつか、えくくのへ
262 え？　ぐ、別に喜んでないですよー。そんな失礼な
263 リン画こませんよー。わー」

264

265 美波「やめ……良かつた（小声）」

266

267 美波「あー、そ、それじや食器片付けやらりますね！
268 大丈夫、ふいに何があつたとか、大体わかりますか
269 ふふ……え、手伝つてくれるんですけど？　ひとりで
270 ばーっとしてると落ち着かないんですか？　ふふ。
271 それじや、お願ひしらやいますね♪」

272

273 ■キッシュ

274

275 お皿を洗う美波。片付けを手伝う主人公。

276 //SE:シャーと水の流れの音

277 //SE:カチャカチャとお皿を洗う音

278

279 美波「その小皿はそつちで、牛乳パックは冷蔵庫に
280 ……つて、私が教える」とじやないですよよね(笑い)」

281

202

283 どうぞ。おまのねやれんじを貰ひてせたしですよ。
284 えへへ、おひいきのうわくへへへへへへへへへへへへ

285 ら私がもつと使ってあげます。いろんなに色々揃つ

287 てゐるに、もつたいないですよー」

288 美波「ええいよ……それじゃ、」の大団は上の棚で
289 「おひで……よ、」よのよ

290

292

293 美波 「え、高いトコ大丈夫かって？ へーきですよ

294 一。」^レを見て、身体検査でも去年より2センチも
295 身長伸びて……て、?、つづけ

296

298 棚の上の方に皿を入れようとして、バランスを崩す
299 美波。

299

301

主人公、それを後ろから抱き留める。

304 美波「あ……うやうう……」（驚き）

303

306 美波を後ろから抱きしめるような形に密着
307 美波「ん、～めんねや～！……！」あぶな～、お皿割

308 「ねえ、アリス……」

310 美波「え？」 お皿じやなくて私は大丈夫かつて？

311 は、はい……大丈夫……です、けど……（照れ）。も、

313

14 恋てて美波から離れる主人公

316

主人公（こめんつい...！）

319 美波「ええっ？ お兄さんが謝る」となんて、なに
320 もないですよー！ 今のだつて、私が悪いんだし、

321 助けてもらひたわけですし……その……」

322

323 美波「あと、意外と……お兄さん、力強いんだなつ
324 て。それでびっくりしたやつただけです。ほら、う
325 ち、私とお母さんしかいないから……」

326

327 美波「あ、そんだけよりも、洗い物片付けちゃいま
328 すね♪」

329

330 ■リビング

331 時間経過。

332 スマホを見ている美波。

333

334 美波「お母さん、まだ連絡ないです……既読も付か
335 ないから、やめぱりたいのかな……」

336

337 美波「あの……わたくしのむだだけ、おじやまとして
338 もいいですか？」

339

340 主人公（別に構わないけど……）

341

342 美波「ありがとうございます！ あの、お礼の顔の
343 てはなんですが……実は、やつを洗い物手伝つても
344 らつてる時に、わよのふ気になつてたんですね」

345

【⑨】→【∞】

346 美波、主人公の近くに来て座り、手を取つて

347 美波「わよつゝ手を見せてもらつていいですか？」

348

349 主人公（……～ さ～）

350

351 美波「……みへぱり、結構肌荒れしちゃつて。ち
352 ょう待つてくたやうね」

353

354 //SE:ペタペタと歩く音

355 鞄からヘンドクリームを取りだし、戻る美波。

356

357 美波「じゃーん！ ヘンドクリームです！ 私もよ
358 く家で洗い物して手が荒れちゃつから、いつも持つ
359 てるんですよ」

360

- 361 美波「はい、では座って手を出してください。塗るついでに、手の平のマッサージもしてあげまやね」
- 362 美波「はい、遠慮しなくていいのですから。あ、もしかして、シボ押されて痛いのか想像してます？」
- 363 364 美波「そんない遠慮しないでいいですから。あ、もう少しして、シボ押されて痛いのか想像してます？」
- 365 美波「ふふふ。そんなにムシモシやくもー。上へお母さんが疲れたらもうちょっとあげてね、やわらかく揉むようなのです！」
- 366 367 美波「はい、それじゃ右手から出してください。うわ、いらっしゃり改めて見るといい大きいですね。なんていふか……男の人って感じがします。ほい、いらっしゃりしてぴたり合わせて見るといい、関節一個分以上大きいやないですか？」
- 368 369 370 371 美波「ふふふ。そんなにムシモシやくもー。上へお母さんが疲れたらもうちょっとあげてね、やわらかく揉むようなのです！」
- 372 373 主人公（や、それなら……）
- 374 375 376 377 378 美波「はい、それじゃ右手から出してください。うわ、いらっしゃり改めて見るといい大きいですね。なんていふか……男の人って感じがします。ほい、いらっしゃりしてぴたり合わせて見るといい、関節一個分以上大きいやないですか？」
- 379 380 381 382 383 美波「はい、それはハンドクリーナーいのばい必要ですね。いつもより多めにいふ……はい、それじゃいきますね。まずは全体に馴染ませるよっし……」
- 384 //SE: ハンドクリーナー音
- 385 (マッサージと塗る音など途中挿みつつ尺調整)
- 386 387 美波「お兄さんの手……あつたかいですね……ややつ。それじゃ、親指から。そうです、一本ずつ、丁寧に塗つて、マッサージしてこまほやからね」
- 388 389 390 391 392 393 394 395 美波「あ、ぐすぐったかいたい顔のでくださいね。はい、人差し指に塗り塗り塗り塗り塗り……いふ。わづ、こんなにならまで放つておいて、社会人の身だしなみ?的に、ダメじゃよー」
- 396 397 398 399 美波「中指のままで……す」一い、指ながーい… …爪むじのてもいい形してますね。比べちゃうと、私の指が子供のほくそ恥ずかしいです……」
- 400 美波「はい、薬指のままでよー。やっぱ右手の

401 薬指つて、恋人用のリングするんでしたつけ？ あ
402 れ？ でも、特につけた跡とかないですね……ふ
403 むふむ」

404

405 美波「では右手最後の小指ですね……」少しだけ、小
406 指と小指絡めてみちやうたりして……つい、じよ、
407 冗談ですよ？ もう、そんな眞面目な顔で照れな
408 いじられたら……」おまかせかしくなつたやう
409 ……」

410

411 美波「はい、それじゃ右手全体のマッサージですね。
412 ちよつとだけ力入れますよー？ もみもみもみもみ
413 ……ふうやか？ 気持ちいいですか？」

414

415 美波「ふふい。お兄さん、素直で嬉しいです……。
416 可愛い♪」

417

418 美波「(笑) あい、すみません、調子に乗つたや
419 つて……ええいと、左手、いきません」

420

【∞】→【2】

421 左手側に移動する美波。

422

423 美波「今度は逆に小指からこきほしょうか……あ、
424 クリームをつけてます」

425

426 美波「今度は逆に小指からこきほしょうか……あ、
427 クリームをつけてます」

428

429 美波、主人公の背後にあるハンズクリームのチュー
430 ブに手を伸ばす。

431 耳元と肩をかすめて衣擦れの音など接近しつつ。

432

【4】→【2】

433 元のポジションに戻つて。

434

435 美波「はい、こきほすよー。力を抜いて、楽にして
436 てくださいね……ふふい。なんだか、本当のマッサ
437 ージ屋さんみたいですね。あ、私はそういうお店、
438 行つた从来没有んだんですけど……」

439

440 美波「はい、薬指。婚約指輪とかする指ですねー。

THE JOURNAL OF CLIMATE

なー(みぎわい)繰り返し)……なんて、ややつ。

443 お兄さんを困らせたりしませんって。それより（今
444 度一緒に出かけたい）……あ、ううん、な、なんで

445
446 もなじやい」

447

448 美波： はい 中指いなかばへよー 先強とか
時間いいのかって？ もう、今更なんですかー。お
兄さんもお母さんみたいな」と言うんだから……。
449
450 (苦笑して) でも、大丈夫。私、こう見えて成績結構いいんですよ。体育とか運動は、ちょっと苦手で
451 すけど……」
452

454 美波 「それじゃ、人差し指ですね。そういうえばお兄
455 さんは普段、マッサージとか行かないんですか?
456 ほら、駅前とかでよくチラシとか配つてゐるじゃない
457 ですか」

459 美波「え、一時間で三千円？ それは……ちょっと
460 高いっていうか……大人の人なら、そうでもないか
461 もですが……つうど、だったら私がまたやつてあげ
462 ます♪ 無駄遣いするぐらくなあ、」いつして私を呼
463 んやくだらうね」

465 美波 「あとは親指さんですねー。うーん、なんだか
466 いいっしてマッサージ終わっちゃうのも名残惜しいな
467 あ……なんて。あ、大丈夫ですよ。バイト代とか請
468 求しませんから♪」

470 美波 「よいしょ……最後に両手を出してねひひい
471 いですか？」 そしたひ、こいつして指と指を絡めるよ
472 うな感じにして……根本の所からマツサージしてい
473 きますね。あ、痛くないですか？ ふふへ、そん
474 な緊張しなくても大丈夫ですよ。では、いきます
475 ね。ぐらぐらいふ……」

477

- 481
482 主人公（気持ち良かつた）
- 483
484 美波「良かっただあ……そつにわいわい嬉しい
485 です。（氣づけ）あ、お兄さんのお手とおん
486 なじ匂いになつたらやこましたね。やよい」
487
- 488 ■トラック3
- 489
490 —時間経過。
- 491
492 【9】
- 493
494 美波「(氣づけ) あ……おつ十時頃もいたの……でも、
495 お母さんまだ連絡来ないですね……」
- 496
497 美波「(ゆき) わいわい あ、あの……わい、お願
498 いがあのえいやす」
- 499
500 美波「(ゆき) に置んでおいてあるヌコシーム……はい、
501 色違いでふたつあるそれです。それ、ひとつお借り
502 してもいいですか？」
- 503
504 美波「(ゆき) 制服のままだと、なんていうか落ち着
505 かなへ……今更ですが」
- 506
507 美波「えい… いいんですか？ ありがとうございます」
508 ます！ 大丈夫、ちゃんと洗ってお返ししますから。
509 え？ そのままで構わない？ ……ええと……それ、
510 もしかして後で……う、ううん、お兄さんないい
511 んですけど……」
- 512
513 美波「(ゆき) おじいちゃんがペジヤマ代わりにお借りします
514 ねい♪」
- 515
516 美波「(ゆき) お兄さん、お風呂入つて来ちゃつて
517 ください。その間に私は、いちで着替えてますから」
518
- 519 美波「あ……信用してますけど、覗いたりしたらめ
520 つ！ ですからね？」

- 521 美波「むちゅ～ん[冗談です～]。ふふふ。……逆に私
- 522 の方が覗いちゃつたりして(小悪魔っぽく小机ゞ)」
- 523
- 524
- 525 —時間経過
- 526
- 527 **【10】**
- 528 //SE:カチャ
- 529 主人公、扉開けてリビングに入る。
- 530 美波、リビングのソファでくつらいでいる。既にス
- 531 ウエットに着替えてくる。
- 532
- 533 美波「おがえりなさい。いいお湯でしたか？」
- 534
- 535 美波「あ……スウェット、私とお揃いですね。ふふ
- 536 」
- 537
- 538 美波「ハ）れ、ちょっと大きいやうけん……ほふ、袖
- 539 とかすっぽり。でも、すばくあつたかいです。もつ
- 540 し早く借りておけば良かつたな～」
- 541
- 542 美波「……くそくくん（スウェットの匂いかい）。な
- 543 んか、お兄ちゃんの匂いがします」
- 544
- 545 主人公（ええ～。臭い!?)
- 546
- 547 美波「あ～。全然、嫌な臭いとかじやないです！
- 548 なんていっか……男の人の匂いなのかなって。ああ、
- 549 もう……なんか変態さんみたいですね、変な」ふふ
- 550 つちやつた……」
- 551
- 552 美波「(氣味) あ、それより、バスタオルお借りし
- 553 てもいいですか？」
- 554
- 555 主人公（そ）の棚にまだ使つてないのあるけど)
- 556
- 557 美波「はい、じゃあソファに座つてへだや～」
- 558
- 559 主人公、詫ねるまほソファに座る。
- 560

561

【5】

562 美波「少し、じっくりしてないね。髪、拭いち
563 ゃいますか? ベベ、自然乾燥? ダスです、それ
564 って髪痛んじや」おやよ~」

565

//SE:バスタオルで髪を拭き続ける

566

567 美波「はー、大人しくしてね。なんて、ちつ
568 ちやい子じゅをあやしてお母さんみたい。私も昔、
569 お母さんにして拭いてもらえたの、なんか嬉し
570 かったんですね……」

571

572 美波「あ、もうどうね……昔はお母さんも今みたい
573 に忙しくなくて、普通の時間に帰つてもいましたね。
574 いつからかな、今みたいな感じになつたの……」

575

576 美波「中学生の途中ぐらいまでは、遅くとも絶対、
577 家には帰つて来てたんですけど……担当してる雑誌
578 がすごく売れてるみたいなんです。今、本が売れな
579 いなかでそれだから、会社全体の期待?みたいなの
580 まで背負つちゃつてしまふしくて……」

581

582 美波「だから大変なのも仕方ないんですね。本当
583 はお仕事減らして欲しいんですけど……大人つて、そ
584 ういうのも難しいってことは、私でもわかりますか
585 い」

586

587 主人公（美波ちゃんは聞き分けがよすぎんなあ）

588

589 美波「え? 私が聞き分けが良すぎんなあ。そうです
590 かね……。ただ、お母さんに迷惑かけたり、嫌われ
591 たくないからってだけですけど……」

592

593 美波「うーん……でも、そうですね。家事とかで結
594 構時間取られるから、友達からの誘いとか行けない
595 りふも多いんですね。今年は生徒会役員にもなつ
596 ちやつたから、余計に忙しくて……それが悩みとい
597 えば悩み、かな……なんとなくですけど、友達とも
598 距離を感じちゃう」おやあつて……」

599

600

601 美波 「でも、それでみんな人それぞれじゃないですか。部活ある子とか、兄妹の世話がある子とか、
602 バイトある子とか」
603

605 主人公（でも、その事情を周りに説明してる？）

607 美波 「え？ 私の事情を友達に言つてるか……ああ
608 ……言つてない……ですね。あくまで私の事情です
609 し……」

古文書考収集の歴史 119

612

613 美波 「そうですね。今度から断る時とかは、言って

614 みます。確かに理由も言わずに断られたら、もつ

レキシカル・ルーチン

617 集皮〔ノリ〕の用法

618
んが大人の人だなあつて思いました。あつ、もちろ

ん、最初から大人の人なんですけど……なんていう

か……そう しゃかりしてゐる！ あ でもなんかそ

おおきな木の下で、おおきな木の下で

623 美皮「え？ そのすべり射るのがダメ？ あつ！（氣

624 うれしそうな顔で、リカちゃんは、ポジティブ

シングでいきます！せつかく、お兄さんにア

トバイアスも心えましたから♪

628
בְּרִיאָה

629

630 美波 「……やでと。あとはドライヤーで乾かしちゃ

631 いましょう。任せください、ドライヤーさばきな
632 ら、うはつごこちござせ!

633

634 美波 「それじゃ、ドライヤーお借りしますね」

二〇〇〇

637
「SE」ハ外ハ外と取れは行き房へでくる
セイ: ダン: の電原一矢、豊山が山の

638 [13] → [33] ↓ [11]

639 身体の周りを回るよう、距離近く。

640 ルルからドライヤーの音続く。

641 (「游戏里的音で尺調整）

642

643 美波「熱くないですか？」

644
645 主人公（大丈夫）

646

647 美波「やれじや、乾かしちゃあがやね……あやい。

648 近所の美容師さん、絶対」れ幅へんぐすよ」

649

650 【5】の時

651

652 美波「うわあ……お兄さん、」」へして見ると意外と
653 背中大きいんですね……」」むねねねさんしか見てな
654 いかに、なんだか不思議な感じだ。」

655 【7】の時

656 美波「背中だけじゃなくて、首回りとかも結構ある

657 ……何か運動とかされてたんですか？　え、特にし

658 てないトモ」のぐふこあるんだ」……なるほど……」

659

660 美波「え？　私は運動は全然ですよ？　走っても大
661 体後ろの方だし……球技とかも苦手で、ボーラー来て
662 も逃げちゃつたりして。それがわかつてるから、み
663 んなに迷惑かけたくないし、失敗したくなくて余計
664 に……あ、ダメダメ。そうですね、」」れもポジ
665 ティブでいきます！」

666

667 美波、主人公の髪を触つて

668

669 美波「」」のぐふいで大丈夫……かな。なんか、色々
670 お話し出来てちょっと嬉しかったです。私、自分の
671 」」ふつて友達とかにもあんまり話せないんですけど
672 ……なんでだろう……お兄さんといふと、なんだか
673 安心するっていうか、」」……」

674

675 美波「すみません、押しかけた状態なのに、」」んな
676 に話まで聞いておふくたやつ」

677

678 主人公（気にしないふくふく。おふく、おひと聞く
679 よ）

680

681 美波「え、いい機会だからね」と話したい? えと
682 ……わ、私はおちんちんいですけど……時間、大丈
683 夫ですか? 寝る時間とか、いつもどのぐらいで
684 す? 明日早いとかない?」

685

主人公(まだ)まだ大人は寝る時間じゃないから平気)

686

美波「なるほど、大人の人はまだまだこれからのが自由時間なんですね。確かにお母さんも、この時間に帰ってきてからひとりで晩酌とかしてます」

687

美波「ところが、お母さん相変わらず連絡ないですね……まだ電車はあると思へんやうか?」

688

主人公(テレビでも見てる)

689

美波「テレビですか? あ……でも、それより気になつてるのはモノがあるんでやうか?」

690

主人公(テレビでも見てる)

691

美波「その……そのテーブルの上にあるの、使ってみてもいいですか? 私、それ一度やってみたいで……」

692

○ムラツク4

693

707

【⑨】→【⑦】

708 ソファに横になる主人公。

709 美波、その頭を膝枕する。

710

711 美波「それじゃ、ソリソリ横になつてください」

712 美波「違うまや、頭はこいつだ。私の膝の上だ」

713

714 美波「えええ? でも、それは……」

715

716 美波「恥ずかしいがひなべついですよ。というか、

717 お兄さんが恥ずかしがると、今まで恥ずかしくなつちやこます……」

- 721 美波「それに、膝の上じやなじと幅さ的に耳の穴よ
722 く見えないです」
- 723
- 724 主人公（じや、じやあ……お願ひします）
- 725
- 726 美波「はこ、それじや、いはして横……よりも縦の
727 方が楽やすよね」
- 728
- 729 美波「前にお母さんにお教へてもらひたんです」
- 730
- 731 美波「わたし好きな人が出来たら、いはして膝枕して
732 あげるよ」と……」
- 733
- 734 美波「……（坂下）あい、ええいよ、わういう意
735 味じゃなくて……膝枕の仕方的な話で……」
- 736
- 737 美波「……は、恥ずかしい……」
- 738
- 739 美波「ん、それじや、耳かき始めますね」
- 740
- 741 美波「ん、それじや、耳かき始めますね」
- 742 【7】近く
- 743
- 744 主人公（は、はこ……）
- 745
- 746 美波「（ハハ）めでしておいてなんですねけど、実は私…
747 …人の耳かきするのい、はじめてなんですね」
- 748
- 749 主人公（ええい！？）
- 750 美波「大丈夫、ややこしくしますから……ねえ」
- 751
- 752 美波「それじや……しゃますよ……もし痛かつたり
753 したひ、右手を上げてください……い、それは歯
754 医者さんですね（苦笑）」
- 755
- 756 美波「まづはなかをよく確認して……はあ……くえ
757 ……なねほふ……大人の人の耳のなかつて、こんな
758 感じなんですね……」
- 759
- 760

- 761 美波「大丈夫、任せ」へください。」、「う見えて、手先
762 は器用な方なのよ。もうあえや、入り口の方からい
763 めますね……」
- 764 美波「よ、では……（緊張）『クリ』」
- 765 美波「よ、では……（緊張）『クリ』」
- 766 //SE: //」かく耳かき音継続
- 767 （ヤニハ SE ドル調整）
- 768 Hロ／なりすがる／その部分カット（役者さん合わ
せド）
- 769 美波「あ……少し取れました……なんのせじ……」
- 770 美波「あ……少し取れました……なんのせじ……」
- 771 美波「よ、痛くないです？」
- 772 美波「よ、痛くないです？」
- 773 美波「あ……少し取れました……なんのせじ……」
- 774 美波「あ……少し取れました……なんのせじ……」
- 775 美波「……………」
- 776 美波「……………」
- 777 美波「……………」
- 778 美波「……………」
- 779 美波「……………」
- 780 //キルギ近付く 衣擦れの音
- 781 美波「あ……もつねみいふ……」
- 782 美波「あ、ティッシュをもみこませよ」
- 783 美波「あ、ティッシュをもみこませよ」
- 784 美波「あ、ティッシュをもみこませよ」
- 785 //SE：ティッシュ抜く音
- 786 美波「それじゃ、もう少し先の方に……」
- 787 美波「じいじ、いいださぶね……」
- 788 美波「じいじ、いいださぶね……」
- 789 美波「じいじ、いいださぶね……」
- 790 美波「よ……（上手くいかない）」
- 791 美波「あ……（取れて喜び）」
- 792 美波「あ……（取れて喜び）」
- 793 美波「あ……（取れて喜び）」
- 794 美波「お、よく見たい最後に大ボスみたいなのがい
795 美波「お、よく見たい最後に大ボスみたいなのがい
796 美波「お、よく見たい最後に大ボスみたいなのがい
797 美波「お、よく見たい最後に大ボスみたいなのがい
798 美波「お、よく見たい最後に大ボスみたいなのがい
799 美波「お、よく見たい最後に大ボスみたいなのがい
800 しばづくカリカリ」と

- 801 美波「ふ、…手強く……」
- 802 美波「ふ、…手強く……」
- 803 美波「ふ、…あひぬみいぬ……」
- 804 美波「ふ、…あひぬみいぬ……」
- 805 美波「ふ、…」
- 806 美波「ふ、…」
- 807 美波「あ……」
- 808 美波「あ……」
- 809 美波「あ……」
- 810 美波「あ……」
- 811 夢中になつて密着
- 812 夢中になつて密着
- 813 夢中になつて密着
- 814 美波「あ、…あ、…」
- 815 美波「あ、…あ、…」
- 816 美波「あ、…あ、…」
- 817 美波「あ、…」
- 818 美波「あ、…(集中)」
- 819 美波「あ、…」
- 820 美波「あ、…」
- 821 美波「あ、…」
- 822 美波「あ、…(緊張はぐれ)」
- 823 美波「あ、…」
- 824 美波「あ、…」
- 825 美波「あ、…」
- 826 美波「なんだか、やよいに慣れてしまった感じがします。最初はちよつと緊張しましたけど……」
- 827 最初はちよつと緊張しましたけど……」
- 828 美波「あ、…」
- 829 主人公(やつら)：初めて会つたときの緊張してたよね)
- 830 美波「え……お兄ちゃん初めて会つたときの緊張してたよね)
- 831 美波「え……お兄ちゃん初めて会つたときの緊張してたね」
- 832 美波「え……お兄ちゃん初めて会つたときの緊張してたね」
- 833 紧張してたね」
- 834 美波「確かに、お兄さんが引つ越しもあり、」
- 835 美波「確かに、お兄さんが引つ越しもあり、」
- 836 挨拶に来てくれたんですね。でも、つかのねお母さんあの時もいなくて、家に私しかいなくて……」
- 837 時もいなくて、家に私しかいなくて……」
- 838 美波「だ、だつて、やっぱり緊張しまやよ。知つない男の人が急に来たら」
- 839 美波「だ、だつて、やっぱり緊張しまやよ。知つない男の人が急に来たら」
- 840 美波「だ、だつて、やっぱり緊張しまやよ。知つない男の人が急に来たら」

- 841 美波「でも……最初だけでしたよ。ほん、覚えてます?
842 駐輪場で自転車のチューンがずれちゃって、
843 困ったの直してくれて」
- 845 美波「（）の得意だからって手伝ってくれて…
846 …でも、チューんの油の汚れ、顔につけちゃって」
848 美波「あの時は、つい笑っちゃってすみませんでした…」
- 849 美波「あの時は、つい笑っちゃってすみませんでした…」
- 850 美波「（）の得意だからって手伝ってくれて…
851 美波「でも、あのあたりから知らない男の人じやな
852 くや、お隣のお兄さんって感じになつてしまふ……」
- 853 美波「（）の得意だからって改めて話すと恥
854 美波「（）なんか、（）改めて話すと恥
855 ずかしいですね……」
- 856 美波「はい、それじゃ右の耳完了です♪」
- 857 美波「はい、それじゃ右の耳完了です♪」
- 858 美波「（）前に、最後のしあげが残つてました」
- 859 美波「（）前に、最後のしあげが残つてました」
- 860 美波「（）前に、最後のしあげが残つてました」
- 861 美波「（）前に、最後のしあげが残つてました」
- 862 美波、主人公の右耳に息を吹きかけてくる。
- 863 美波「（）」
- 864 美波「（）」
- 865 主人公（……（）?）
- 866 主人公（……（）?）
- 867 美波「（）」
- 868 美波「（）」
- 869 主人公（それはまあ……）
- 870 主人公（それはまあ……）
- 871 美波「良かつたあ……それじや、反対側いきましょ
872 うか。（）わ西キド、（）のーんにしてへぐだねこ。は
873 い、良く出来ました～」
- 874 美波「（）」
- 875 美波「（）」
- 876 【7】→【3】
- 877 美波、主人公の左耳の耳かきをしていく。
- 878 美波「（）」
- 879 美波「（）」
- 880 美波「（）」

- 921 美波「お兄さん、耳に息かけられるのに弱いんですね」
- 922 美波「でも、嫌って感じ……いやないですよね？」
- 923 美波「でも、嫌って感じ……いやないですよね？」
- 924 美波「お兄さん、耳に息かけられるのに弱いんですね」
- 925 美波「おしゃれ、喜んでみたいな……」
- 927 美波「ふ———」
- 928 美波「ふ———」
- 929 美波「ふふふ（小悪魔的な笑み）」
- 930 美波「ふふふ（小悪魔的な笑み）」
- 931 美波「お兄さん可愛いから、なんだか悪戯したくなっちゃう……」
- 932 美波「お兄さん可愛いから、なんだか悪戯したくなっちゃう……」
- 933 美波「お兄さん可愛いから、なんだか悪戯したくなっちゃう……」
- 934 美波「せこ、ハハ」かわせ真面目にならうがや」
- 935 美波「せこ、ハハ」かわせ真面目にならうがや」
- 936 美波「…………あれ、おみくじ見てなこ……」
- 937 美波「…………あれ、おみくじ見てなこ……」
- 938 //SE:衣擦れの音、密着
- 939 //SE:衣擦れの音、密着
- 940 美波「え……」れなれな
- 941 美波「え……」れなれな
- 942 美波「あ……」けやけや
- 943 美波「あ……」けやけや
- 944 美波「あ……」けやけや
- 945 美波「あ……」けやけや
- 946 美波「あ……」けやけや
- 947 美波「あ……」(取れたー)
- 948 美波「あ……」(取れたー)
- 949 美波「え、ハジカラ? 気持つこ、ドヤか……?」
- 950 美波「ふ———」
- 951 美波「ふ———」
- 952 美波「ふ———」
- 953 主人公(わやわ)
- 954 美波「あ、うふ……」
- 955 美波「あ、うふ……」
- 956 美波「あ、うふ……」
- 957 主人公(わやわ)イジワルしないでよ
- 958 美波「おしゃれ、喜んでみたいな……」
- 959 美波「はー、もう悪戯しません。」これが最後です」
- 960 美波「はー、もう悪戯しません。」これが最後です」

- 961 美波「ふふー———」
- 962
- 963 耳元で囁く声
- 964
- 965 美波「初めてでしたけど……すまへ、良かつたです」
- 966 美波「お兄さんも、気持ち良くなれましたか?」
- 967 美波「お兄さんも、気持ち良くなれましたか?」
- 968
- 969 主人公 (「へへ……」)
- 970
- 971 美波「ふふい。そんなに喜んでやるのやうなひ、今度、
- 972 お母さんにもやつてあげよひよへ」
- 973 ○トラック5
- 974
- 975 【15】
- 976 ソファに並んで座った主人公と美波。
- 977
- 978 美波「ふつ…… (満足)。なんていっか、お兄さんの
- 979 反応がうれしくて……ちよつと調子にのっちゃいま
- 980 した、『ゴメンナサイ』
- 981
- 982 美波「やひしょ……やひそのお母さんも連絡が…… (嘆
- 983 息) なこやすね」
- 984
- 985 美波「むへー! 時過ぎるのに……終電なのか、タク
- 986 シーか……」
- 987
- 988 美波「え…… (のぶひる眠る) やめて、連絡べへい
- 989 くれればいいのに……」
- 990
- 991 美波「ふあ…… (小声な欠伸)」
- 992
- 993 美波「あ、だ、大丈夫です、まだ全然眠くは」
- 994
- 995 美波「こ(の)時間、宿題とか勉強してるので…
- 996 …今日はお休みですけど」
- 997
- 998 主人公 (でも、疲れてるみたいだし)
- 999
- 1000 美波「大丈夫……大丈夫……です。委員会とかで、

- 1001 ちよつと疲れただけで……」
- 1002
- 1003 美波「お兄ちゃんのお部屋で、最初はわよへと緊張してましたけど……わへ、安心つていうか……あれ、
- 1004 私、何言ひでるんだる……わあ……（小やな欠伸）」
- 1005
- 1006
- 1007 美波「やめ、いいで寝ちゃうわけには……まだ、も
- 1008 へとお詫しただい……」
- 1009
- 1010 美波「せいかくなんだかの……んん……」
- 1011
- 1012 美波「ふああああ……あ、」、「あんたやん……あ
- 1013 の、ほんのちよつとだけ、ほんのちよつとだけ田を
- 1014 閉じてもいいですか？ 5分経つたら起きして欲し
- 1015 いのや……」
- 1016
- 1017 美波「5分で大丈夫……です……」
- 1018
- 1019 美波「なんが急に……眠く……」
- 1020
- 1021 美波「ん…………お兄ちゃんむ、一緒に寝ますか……？」
- 1022
- 1023 美波「ふふふ。冗談、ですか……」
- 1024
- 1025 美波「そんなめいわく……かけられない……」
- 1026
- 1027 //SE:うわいおお!主人公の方にむたれる美波。
- 1028
- 1029 美波「す、う……。（寝顔）
- 1030
- 1031 リリから1分ほどの寝顔。
- 1032
- 1033 美波「……すう…………すう……」
- 1034
- 1035 美波「え…………え…………」
- 1036
- 1037 美波「ね兄ちゃん…………ああい…………ああい…………（寝
- 1038 てぬ）」
- 1039
- 1040 美波「す、う…………」

- 1041 寝息が深くなつていいのがわかる。
- 1042 主人公、仕方なく美波を抱きかかえ、ベッドに運ぼうとする。
- 1043 1044
- 1045 美波「んん……（寝ぼけ）あれ……お姫様……だつ」
- 1046 1047 美波「んん……（寝ぼけ）あれ……お姫様……だつ」
- 1048 1049 美波「お兄ちゃんの手……あつたかい…………すう…」
- 1050 1051 美波「眠る」
- 1052 1053 運ばれていく美波。
- 1054 1055 美波「え……なんか揺れても……」
- 1056 1057 美波「眠らない……寝れない……どう……」
- 1058 //SE:ベッドに横たわる
- 1059 1060 美波「あ……お布団……気持ちいい……」
- 1061 1062 主人公、ソファに戻ろうとするが美波に服を掴まれる。
- 1063 1064
- 1065 美波「…………あ、ダメ、お兄ちゃん……そいつ行っちゃ……お兄ちゃんの場所…………」
- 1066 1067 美波、ぱんぱんと自分の横の布団を叩く
- 1068 1069 //SE:パンパン
- 1070 1071 美波「ほひ、はやくー（寝ぼけ）」
- 1072 1073 美波「疲れてるんじゅかーー、一緒にお休みしましょーー（寝ぼけ）」
- 1074 1075 美波「私が……あつためであげますよーー」
- 1076 1077 美波「…………でも…………ふふ…………ですかーー？」
- 1078 1079 美波「主人公(嫌じやないけど)「これはマズイのでは……」

- 1081 美波「嫌じやないなら、マズくないじゃー。私がい
1082 いといふ幅ひんぐんだから、いいんでー」
- 1083 1084 美波「ね……お願い……」
- 1085 1086 主人公（ちゅうじゆうこう）（ちゅうじゆうだけ、ちゅうじゆうだけね）
- 1087 1088 美波「ちゅうじゆうだけじやダメー。ゆくべうしてくれ
1089 なきややぢゅー」
- 1090 1091 美波「はこ、りくのじゅうーん」
- 1092 1093 //SE:あたたかく布団たたく
- 1094 1095 【9】→【7】
- 1096 ベッドの奥側（窓側）に美波。
- 1097 1098 手前側に主人公が横になる。
- 1099 1100 美波「良く出来ました～。ふあああああ……（欠伸）」
- 1101 1102 美波「ほん……お布団ひんやうしゅく、りくへんで
1103 へうつしまーあつたかこ……」
- 1104 1105 美波「あまいかれただやこ……」
- 1106 1107 美波「ダメ……わいわい強め……」
- 1108 1109 美波「はい……なんだか、わいへん氣持の良べー……
1110 安心……」
- 1111 1112 美波「ね申やんとむ違つ……不思議な感じ……」
- 1113 1114 美波「ええ……（ええええ）ここのこ……」
- 1115 1116 美波「はあ……（はいふう）なんだか、すうめ……
1117 いいなあ……」
- 1118 1119 美波「はいへこつの、幸せいでこつのかな……」
- 1120

- 1121 美波「えん…………すう…………ねむ…………」

1122 美波「す、…………す、…………」

1123 美波「や、…………」

1124 美波「や、…………」

1125 美波「や、…………」

1126 美波「や、…………」

1127 1分ほど、完全に寝ていい美波。
急に、ヘシル辰付いたよつこ

1128 1128

1129 1129

1130 美波「……（返つき） い？」

1131 1131

1132 寝ぼけている美波、状況に気付き飛び起きる。

1133 1133

1134 美波「えい！？ あれい！？ ベベい！？ 私、なんで……
あれ？ 今の夢じやなこ！」

1135 1135

1136 1136

1137 美波「す、すみません……！ 私、とんでもなこ！」

1138 1138 気にしてないし、むしりなメ

1139 1139 ンへ、ち、違います！ 謝るのは私です！ なんか、

1140 1140 めちゃくちや寝ぼけてて……てっきり、夢だしひばか
り……ええええ（錯乱）」

1141 1141

1142 1142

1143 美波「あ……あの……はしたない子だと思わないで
ねひんぬい……嬉しく……です」

1144 1144

1145 1145

1146 美波「あ、ありがとー」やむこめや……」

1147 1147

1148 主人公（いやあ、僕はソファで寝るよ）

1149 1149

1150 美波「え……お兄さん、ソファで寝るんですか？」

1151 1151

1152 美波「…………（考えて、思い切つて）」

1153 1153

1154 美波「あ、あのー……それなり……その……良かつ
たらなんですか……一緒に……寝ませんか？」

1155 1155

1156 1156

1157 美波「あの、そんなぐうづくかじやなくていの
で……私、はじひの方で、ちのわやくなつてます
か？」

1158 1158

1159 1159

1160 1160

- 1161 美波「ほ、ほふ、その……お布団、温めておやすみ」
1162 た……的な？」
- 1163 美波「ちょいと無理があります……よね。 大丈夫
です、わかつてます……自分が変な、いじついてる
て」
- 1164 美波「……あ、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1165 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1166 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1167 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1168 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1169 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1170 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1171 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1172 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1173 美波「あ……あう、そんない笑わなくやもといじや
ないですか……」
- 1174 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1175 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1176 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1177 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1178 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1179 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1180 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1181 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1182 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1183 主人公（主人公）：「…………」
- 1184 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1185 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1186 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1187 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1188 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1189 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1190 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1191 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1192 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1193 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1194 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1195 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1196 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1197 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1198 美波「…………（氣でや） あ。 お母さんからメッセージ
来てましたー」
- 1199 兄さんがいなかつたら、カラオケボックスとかで朝
まで通う」やなくちやいけないと」ひだした……」
- 1200 まよだした……」

- 1201 美波「わふうじゃ危ない。 もうどうね……はい、
- 1202 気をつかまし (反省)
- 1203
- 1204 美波「えねじや……」「度行くべきは」 一緒に行きま
- 1205 せんか? カラホケ」
- 1206
- 1207 美波「ホノトドキか? うわあ……嬉しい……。 約
- 1208 束、 でやよ~」
- 1209
- 1210 美波「はい、 小糸田ヒトヤヒ」
- 1211
- 1212 美波「あらわづかみが、 魔女いたひばりさんほん
- 1213 の一冊や」
- 1214
- 1215 美波「ああい……なんだかんだ話の、 いっしで素
- 1216 直にのあひでくれるの、 す」へ嬉しげです」
- 1217
- 1218 美波「私のいじめ、 おもね扱いしないでこいつへくれる」
- 1219
- 1220 「……」
- 1221
- 1222 美波「だから…………」
- 1223
- 1224 美波「え、 もの…… (好めい) 田中やなこ」
- 1225
- 1226 美波「ええい…………ば、 なんでもなこじす(照れ)」
- 1227
- 1228 美波「明日は早くねやか~」
- 1229
- 1230 美波「あ、 私より早い……じやあ、 田嶋もしかけな
- 1231 いひですね」
- 1232
- 1233 美波「少し早めにしておこう! ハルヒ。 私、 朝()飯
- 1234 作りますから」
- 1235
- 1236 美波「朝さむやんしておこう! ハルヒ。 私、 朝()飯
- 1237
- 1238 美波「泊めてやったねれど、 まことにしたがって
- 1239 だや~」
- 1240

- 1241 美波「おっしゃ、私が作りたこんでや〜」
- 1242 美波「ふあ（矢伸）…………あれ…………わ～ん、お詫び……お兄
- 1243 美波「ふうなんじや…………おうえ…………おうえ…………お兄
- 1244 たいのこ…………」
- 1245 美波「ふうなんじや…………おうえ…………おうえ…………お兄
- 1246 美波「ふうなんじや…………おうえ…………おうえ…………お兄
- 1247 わんのこ…………知りたこ…………」
- 1248 美波「ええ…………あの…………らむいわけ、お願ひ…………」
- 1249 美波「うへこ…………手、握りしめかこどすか～」
- 1250 美波「うへこ…………手、握りしめかこどすか～」
- 1251 美波「ふうなんじや…………おうえ…………おうえ…………お兄
- 1252 美波「ふうなんじや…………おうえ…………おうえ…………お兄
- 1253 美波「ふうなんじや…………おうえ…………おうえ…………」
- 1254 美波「す～～…………」
- 1255 美波「す～～…………」
- 1256 美波「す～～…………」
- 1257 美波「ね足やうえ…………好き…………」
- 1258 美波「ね足やうえ…………好き…………」
- 1259 ○スラッシュ⑥
- 1260 10分ほどの寝顔、寝顔で R/O
- 1261 寝顔基本的にアンドリュード。
- 1262
- 1263 以下寝顔(※)トイプ、心地よさ感のキャラクター)
- 1264 美波「…………ええ…………」
- 1265 美波「ふああ…………」
- 1266 美波「…………ええ…………」
- 1267 美波「…………ええ…………」
- 1268 美波「…………ええ…………」
- 1269 美波「す～～…………」
- 1270 美波「す～～…………」
- 1271 美波「ええ…………美味しき…………」
- 1272 美波「ふうなんじや…………おうえ…………お兄
- 1273 美波「ふうなんじや…………おうえ…………お兄
- 1274 美波「ふうなんじや…………おうえ…………お兄
- 1275 美波「ふうなんじや…………おうえ…………お兄
- 1276 美波「ふうなんじや…………おうえ…………お兄
- 1277 美波「え～～…………」
- 1278 美波「え～～…………」
- 1279 美波「あうたかこ…………」
- 1280 美波「あうたかこ…………」

- 1281 美波「今度は……私の耳かき、お願ひ一つがや……」

1282 1283 美波「おふくろ…………おふくろ…………」

1284 1285 美波「おふくろ…………おふくろ…………」

1286 1287 美波「おふくろ…………おふくろ…………」

1288 1289 美波「おふくろ…………おふくろ…………」

1290 1291 美波「おふくろ…………おふくろ…………」

1292 1293 美波「手、はなやねこや……」

1294 1295 美波「ふ――――（耳）。（悪戯）」

1296 1297 1298 1299 美波「お尻わくわく（寝顔）」

1300 1301 1302 1303 美波「お母さんには渡せなかんだから…………」

1304 1305 1306 1307 美波「ふ――（お尻わくわく）」

1308 1309 1310 1311 1312 1313 1314 1315 1316 1317 1318 1319 美波「お兄さん…………」

1320 美波「お兄さん…………」

1321

1322

1323

1324

美波 「え、……」

//END